

都内各区の観光パンフレットの言語表現にみる東京の領域イメージ

Image of Edges of Tokyo through the Analysis of
Words on Sightseeing Brochure of Tokyo 23 Wards

奥山研究室 17M50450 深津 亮太 (FUKATSU, Ryota)

1. 序

1-1. 研究の背景と目的

現代において人々の抱く東京に対するイメージは、実体験だけでなく様々なメディアによっても形成されている。その一つである都区内の観光協会が発行する観光パンフレットは、観光名所を中心に歴史や由来といった観点から各区の特徴が文章や地図などにより紹介されている。そこでは、複数の行政区で共通する内容もみられ、これらの共通する内容とその分布から、行政区の枠組みを越えた東京の領域イメージを捉えることができると考えられる。そこで本研究では、都内各区及びその周縁地区の観光パンフレットの言語表現から各区の特徴に関する内容を抽出し、そこから複数の行政区で共通する内容とその分布を検討することで、東京の領域イメージの一端を明らかにすることを目的とする。

2. 地区要素と越境要素の分類と内容

資料とする観光パンフレット¹⁾には、図1のように、見出しや観光スポットと紹介文がセットになったテキストにより地区の特徴が紹介されている。紹介テキストの中から、地区の特徴を表現した固有名詞を地区要素とし、抽出・検討した。さらに地区要素には、複数の行政区で共通するものがみられたため、それを越境要素²⁾とした。本章では、地区要素と越境要素の内容を検討することで、

都区内の行政区別の特徴を捉える。

2-1. 都区内の地区要素の分類と都区内の行政区別の内容

地区要素の内容について検討した結果、物理的に存在する<実体>と存在しない<非実体>に大別した(図2)。さらに、<実体>は《自然環境 Na》《都市環境 Ls》《建物構築物 Bd》《史跡・道標 Hs》《物・品・乗り物 Gs》と分類した。(以下、《Na》《Ls》《Bd》《Hs》《Gs》)。《Na》は川や道に関するもの、《Ls》は都市景観や街並に関するもの、《Bd》は寺社仏閣や橋に関するもの、《Hs》は銅像や塚に関するもの、《Gs》は作品や電車に関するものとした。また、<非実体>は《場所 Pl》《人物 Ps》《出来事・行為 Ac》《時代・様式 Ag》《神・宗教 Ri》《伝承・逸話 Le》《産業 Id》《来歴・記憶 Me》と分類した。(以下、《Pl》《Ps》《Ac》《Ag》《Ri》)。《Pl》は地名や所に関するもの、《Ps》は人との縁故や役職を記したものの、《Ac》は歴史上の事実や活動に関するもの、《Ag》は年代や期間に関するもの、《Ri》は祭神や信仰に関するもの、《Le》は物語や言い伝えに関するもの、《Id》は発祥に関するもの、《Me》は今は存在していないものに関するものとした。

次に、これらの地区要素の各行政区における内訳を検討し、図2右側に示した。その結果《Bd》を有する行政区が多かった。また、江戸川区では《Bd》よりも、《Ac》

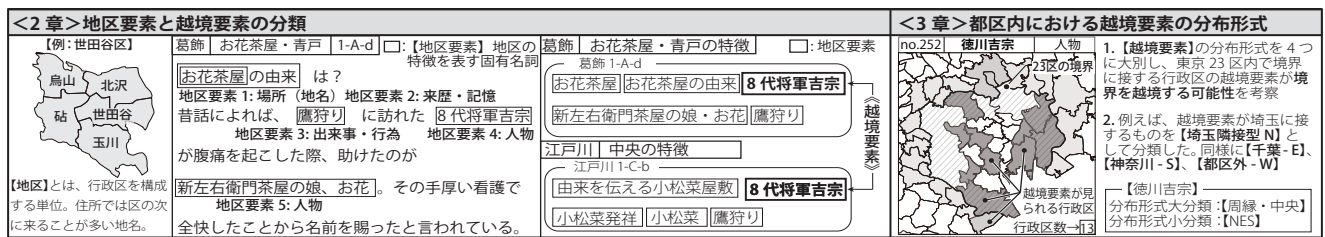


図1. 分析例

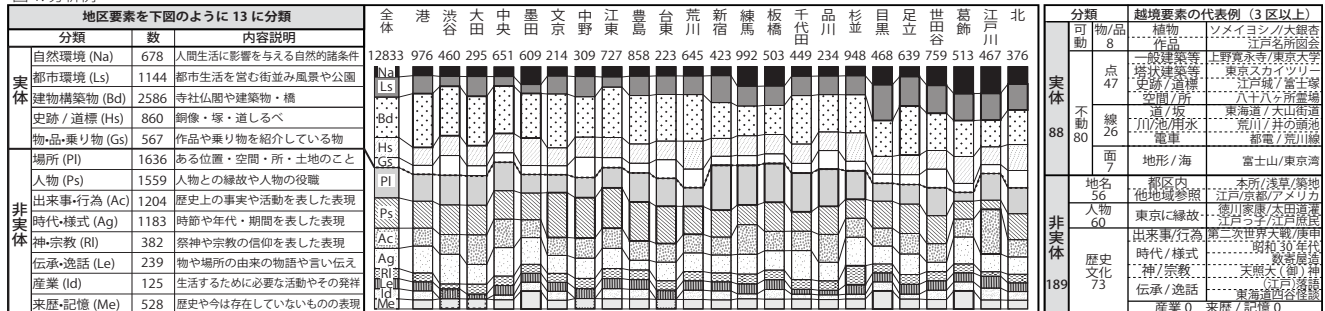


図2. 地区要素の分類と行政区ごとの分類



図3. 越境要素の分類

の方が多くみられた。

2-2. 越境要素の分類と内容

前節で捉えた地区要素のうち、越境要素となるもののうち、＜実体＞では、持ち運びできるものを〔可動〕とし、できないものを〔不動〕とした。〔可動〕は『物/品』のみがみられた。また、〔不動〕は、建物などの広がりがある限定的なものを『点』、川や道などの線的な広がりをもつものを『線』、面的な広がりをもつものを『面』とした。また、＜非実体＞についてはさらに『地名』『人物』『歴史文化』に分類した（図3）。＜実体＞は＜非実体＞の約2倍みられた。また、＜非実体＞のうち、《Id》《Me》は越境要素とならなかった。これより、《Id》《Me》は行政区独自の特徴を表す要素であると考えられる。

3. 越境要素の分布形式

本章では、2章で抽出した都区内³⁾と周縁地区⁴⁾の越境要素のそれぞれの分布形式⁵⁾を検討する（図1右側）。

3-1. 都区内における越境要素の分布形式

まず、都区境界地区⁶⁾の越境要素の分布の有無から都区内における越境要素の分布形式を検討し、都区境界地区に越境要素をもつものを、越境要素が都区境界地区にまとまって分布する〔一体型〕、越境要素が都区境界地区に分離して分布する〔周縁・分離型〕、それら二つの特徴をあわせ持つ〔周縁・中央型〕で捉え、都区境界地区に越境要素を持たないものを〔中央型〕として捉えた。また、それぞれの越境要素の内容を検討した（図4）。その結果、越境要素全体の割合を鑑みると、〔一体型〕〔周縁・分離型〕〔中央型〕では＜実体＞が多くみられたのに対し、〔周縁・中央型〕では＜非実体＞が多くみられた。〔周縁・中央型〕がほかの三つのタイプよりも周縁と中央に非実体が多くみられるのは、越境要素の実体と非実体の比（1：2）が反映されていることを顕著に示していると考えられる。

3-2. 越境要素の分布における周縁隣接形式

次に、前節で捉えた越境要素の分布形式のうち、都区境界地区に越境要素を持つものについて、それらの地区がどの周縁地区に隣接するのかを周縁隣接形式として検討した。例えば、埼玉県に隣接する地区に越境要素をもつものを埼玉隣接型“N”とし、他の周縁地区に隣接する場合についても同様にして千葉隣接型“E”、神奈川隣接型“S”、都区外隣接型“W”とした（図5）。以上より、都区内の越境要素は、都区境界地区に分布する傾向があることがわかった。また、図4よりIVは実体の性質と

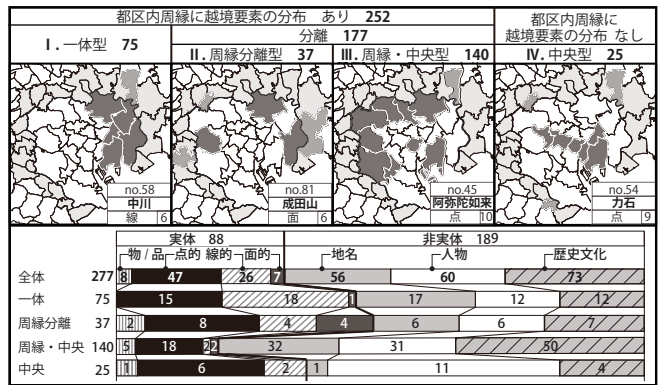


図4. 越境要素の分布形式の分類と内容

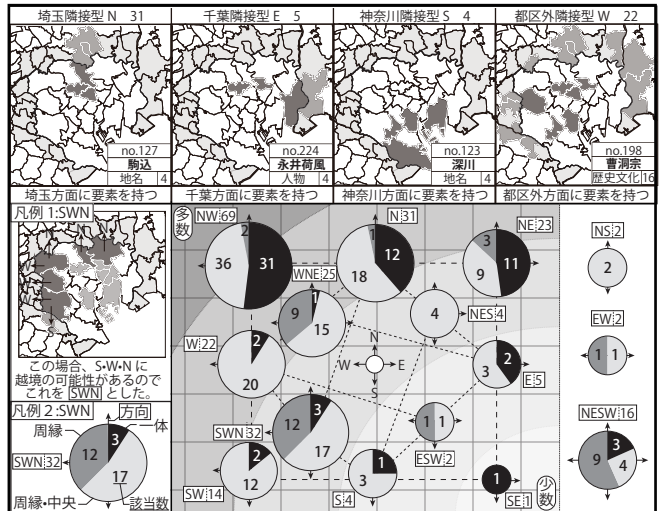


図5. 周縁隣接形式の分類と内容

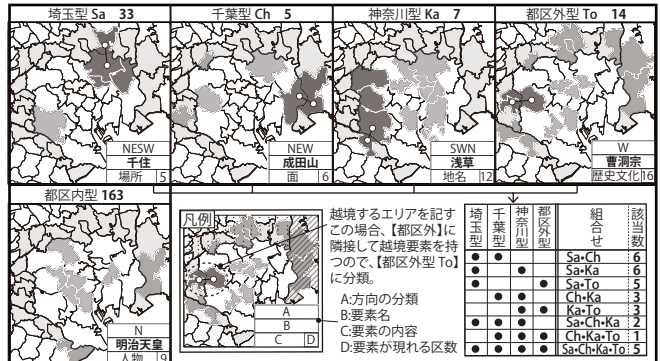


図6. 境界越境形式の分類

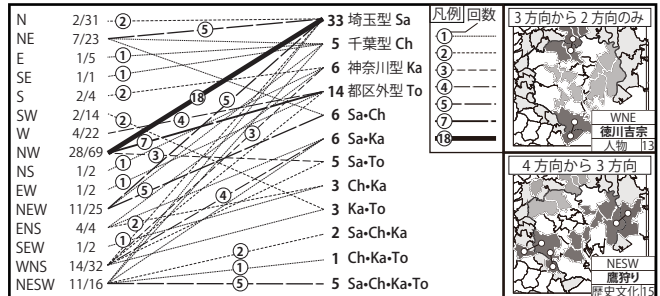


図7. 周縁隣接形式と境界越境形式の対応関係

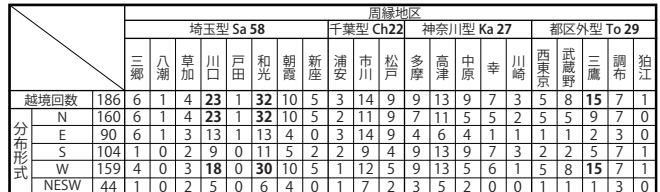


図8. 周縁地区における越境要素の分布

注) 数字は該当数

非実体的性質を同程度持つことがわかることから、都区内で中央に分布するものは、実体的性質と非実体的性質を共に持ち合わせていることが考えられる。図5において、都区境界地区にはSEからNWに向かって、同心円状に数が増加していることから、都区内の中心がNWに偏り、その原因は、実体的な内的要因だけでなく、非実体的な外的要因も影響していると考えられる。

3-3. 周縁地区における越境要素の分布形式

前節で捉えた周縁隣接形式ごとに、周縁地区における越境要素の分布形式を境界越境形式として検討した(図6)。その結果、周縁地区に越境要素をもつ【埼玉型Sa】、【千葉型Ch】、【神奈川型Ka】、【都区外型To】と、周縁地区に越境要素をもたない【都区内型】で捉えた(以下、【Sa】、【Ch】、【Ka】、【To】)。さらに、周縁地区に越境要素をもつものについては、【Sa】【Ch】【Ka】【To】の組合せも検討した。

次に、東京23区の境界を超えた東京の領域イメージについて捉えるために、前節で捉えた周辺隣接形式と境界越境形式の対応関係について検討したのが図7である。

さらに、周縁隣接形式ごとに周辺地区における越境要素の分布数について検討したのが図8である。まず、Nでは川口と和光に数が集中している。また、E、Sではそれぞれ市川と高津における分布数が最も多いが、両者とも川口と和光がそれらと同程度みられた。

また、Wでは三鷹に比較的数字が集中するものの、和光ではその2倍の分布数がみられた。

4. 領域イメージと東京23区の既存境界との関係

以上で検討した越境要素の内容と分布形式を合わせて地図上にプロットした(図10)。

まず、《地名》のうち[現在都内に存在している地名]と[他地域を参照した地名]に着目すると、前者は現在は地区と同程度の規模をもっており、それらを描画しその外側を結んだものは、江戸の境界であった「墨引き」と「朱引き」と重なること、後者の[過去に存在した昔の呼称の地名]で「江戸」に関係するものが広範囲にみられることがわかった。これより、観光パンフレットにおいて、江戸時代から中心となっていた地名が現在でも、東京の魅力として発信していると考えられる。

次に、で和光市、川口市、朝霞市、市川市、高津区、三鷹市は【境界隣接セット】を形成する越境要素の数が10以上の東京都区内との関係がより強い行政区であり、

特に埼玉方面に境界が広がっていた。

具体的にみていくと、最も越境要素の数の多い和光市では、聖観音、庚申塔といった『点』と秩父、武蔵野の面影といった『地名』と関東大震災、明治政府といった『歴史文化』が多く、『点』のなかでも、『史跡・道標』の越境要素が多くみられた。次に越境要素の多い川口市では、和光市で多くみられた3つの越境要素に加え、太田道灌、歌川広重といった『人物』が多くみられた。その他の朝霞市、市川市、高津区では、越境要素が偏りなく見られたのに対し、三鷹市では神田川、玉川上水といった『線』と第二次世界大戦、鬼子母神といった『歴史文化』が最も多く見られた。このことより、埼玉に隣接している練馬区、板橋区、北区、足立区は、＜実体＞の『点』的性質を『歴史文化』を紹介文に出しながら地区の特徴を語っていると考えられる。都区境界地区と周縁地区では、埼玉方面に傾いていると考えられる。具体的には、和光市や川口市のように、越境回数が多い行政区は既存境界よりも広がっていて、戸田市や八潮市のように、越境回数の少ない行政区は、既存境界を現状維持しているかもしくは、境界が広がっているか狭まっているか曖昧になっていると考えられる。

5. 結

以上、東京都区内及びその周辺の観光パンフレットの紹介テキストから、東京の領域イメージの一端を探った。その結果、地区要素の内容からは、都区内の行政区が観光パンフレットで取り扱うものの特徴を、越境要素の内容からは、都区内全体の特徴及び都区内周縁の特徴、都区周縁との関係性を明らかにした。また、越境要素の分布形式を検討することにより、都区内の分布形式の関係と都区周縁の分布形式の関係という大きく二つの性格としてとらえた。これらにより、東京は、江戸時代という大きな時代の名残が現在にも影響を与えているのと同時に、東京都区部の境界が北側に偏心しながら、より曖昧になっているという東京の領域イメージを明らかにした。

註

1) 東京23区とその周辺における書く行政区の観光課や観光協会・委員会が発行する観光パンフレットやガイドマップでは、行政区全体を紹介したものと、地区別(行政区を構成する単位)に紹介したものがある。本研究では、各行政区全体を紹介したものの中で、地区を紹介するものページを持つものと、地区別に紹介したものを対象とする。

2) 3市区以上にみられる共通した言語表現であり、その中で都区内に2区以上もつものを対象とする。

3) 東京23区のこと。そのため、今回は東京23区外を都区外としている。

4) 東京23区の境界に隣接する埼玉県・千葉県・神奈川県・都区外の行政区のこと。

5) 越境要素の繋がりを地図上に図示したもの。

6) 東京23区内で23区の境界に隣接する行政区のこと。

参考文献

1) 嘉永慶江戸切絵図 人文社 1966.3

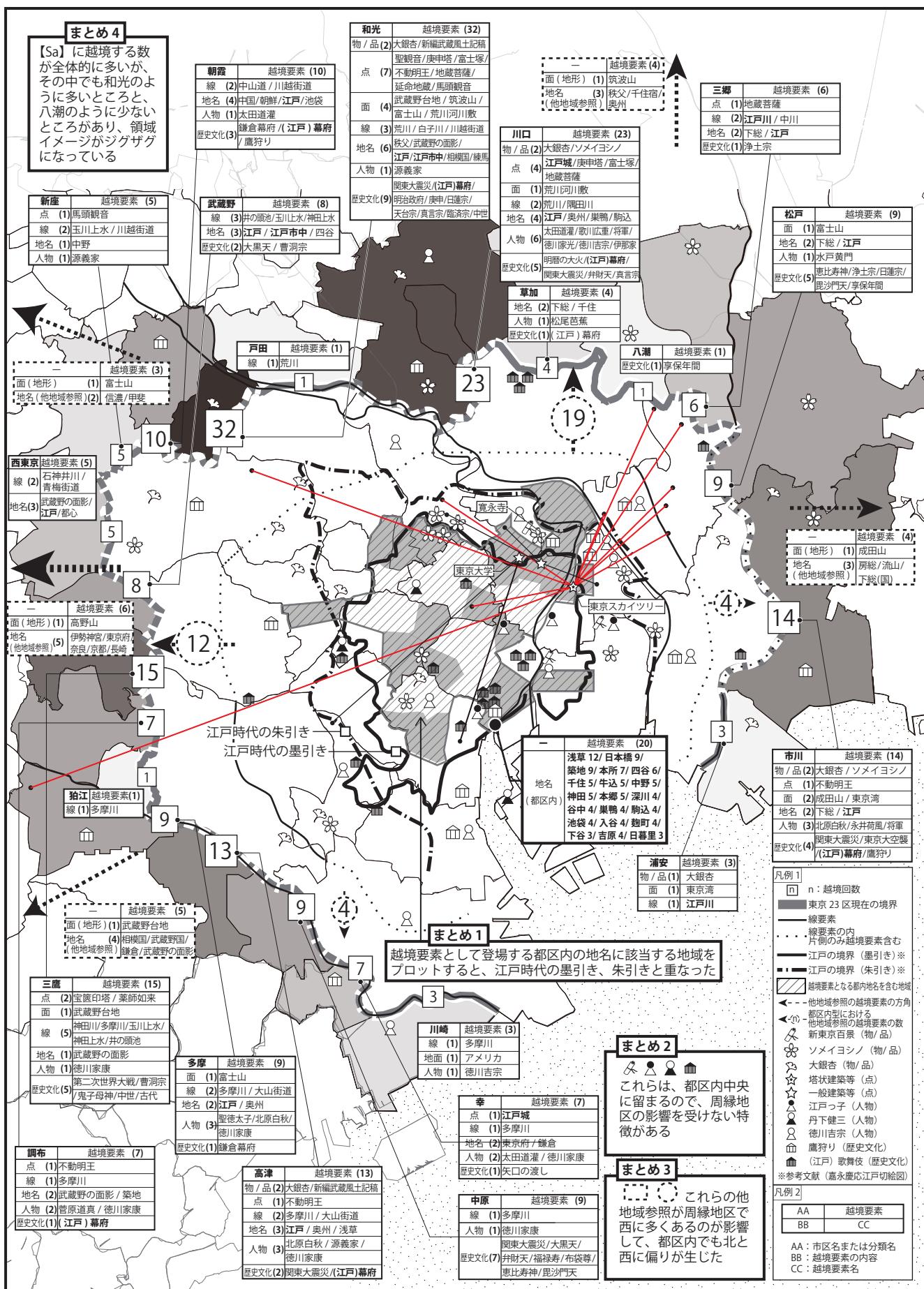


図8. 東京の領域イメージ